

経営比較分析表（令和4年度決算）

北海道 羽幌町

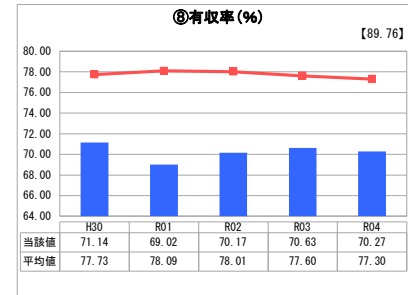
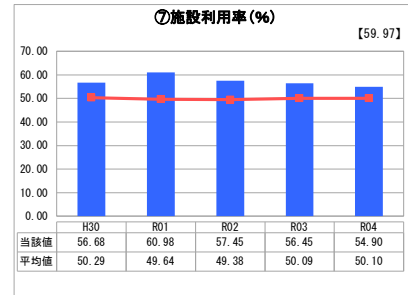
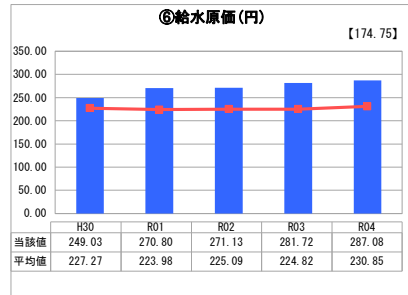
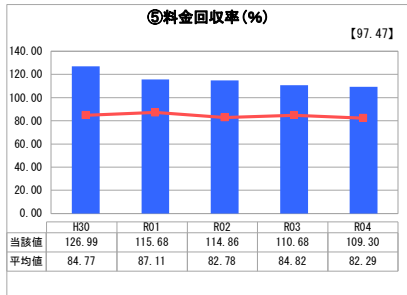
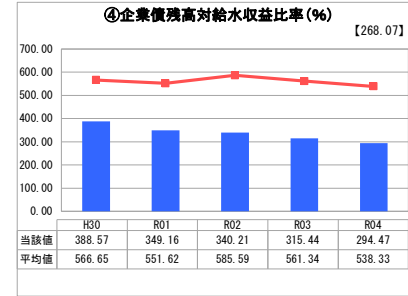
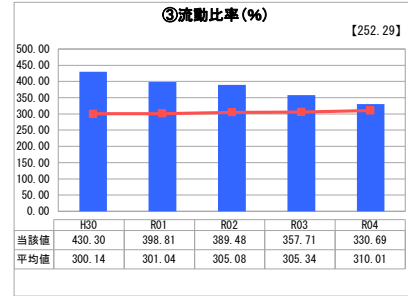
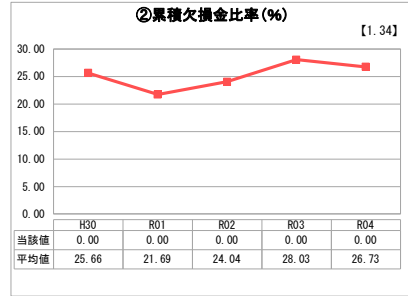
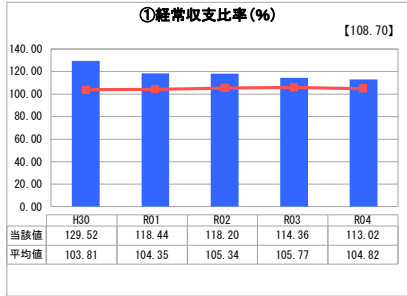
業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	70.18	92.44	5,850	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,361	472.65	13.46
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,768	37.39	154.27

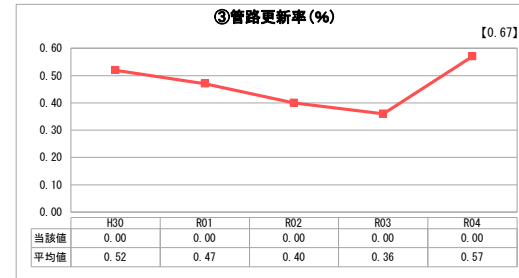
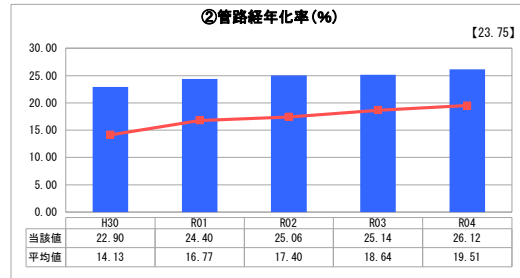
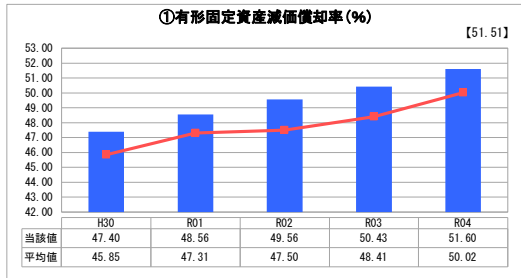
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については常に100%を上回っており、健全な経営が図られていることを示している。短期流動性の良否を表す流動比率についても必要値である100%以上を大きく上回っており、短期債務に対する支払い能力は依然良好である。

企業債高対給水収益比率においては、平成24年度に実施した繰上償還により数値が減少したことに加え、近年新たな企業債を発行していないことから減少傾向にある。

料金回収率は供給単価と給水原価との関係を見るものであり、100%を超える場合は給水に係る費用が全て料金で賄われていることを示している。一方その有収水量1㎡あたりの費用を表す給水原価は、平成29年度に一時的な費用減少から微減したものの、依然全国平均を大きく上回っており、高濁度対応により整備された浄水場の減価償却費が影響しているものと思われる。

施設の稼働が収益につながっているか判断する有収率は、平成29年度以降減少していたが、漏水発見箇所の修繕により令和2年度以降わずかに回復した。今後も漏水調査等により有収率の回復、向上に努めたい。施設利用率の変動はその有収率の影響によるものである。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は会計制度改正に伴う受贈財産の既償却部分の一括計上により上昇し、平成30年度には浄水場内設備の更新等により減少したものの、令和元年度以降大規模な更新がなかったこと等から再び上昇した。

管路経年化率の上昇については、管路延長の長い原野地区の管路が法定耐用年数を迎えたことによるものである。管路更新率は全国平均と比べて低い水準にある。

全体総括

短期流動性、長期健全性ともに良好で、概ね健全な経営が図られているが、給水収益が減少傾向にある中、有形固定資産減価償却率及び管路経年化率が上昇していることから、有収率の向上対策を行い、給水原価の減少に努め、今後、老朽化が進む施設や管路については計画的な更新及び整備を行っていききたい。